

学生大使 実施報告書

氏名：加藤光織

学部・学科（コース）・学年：医学部看護学科1年

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：2024/02/21～2024/03/06

1 日本語教室での活動内容

日本語教室は平日の18時から19時半までの90分間、「日向クラブ」という日本語学習に興味がある学生が集まるクラブ活動に参加して行った。参加してくれるクラブのメンバーの数はその日によってさまざまに毎回臨機応変に教える内容や方法を変えた。今回は参加した山形大学の学生が14人でベトナムの学生の人数よりも多かったため1人のベトナムの学生に対して複数の日本人が教えるという場面も多かった。学生によって日本語の習得度が大きく異なっていた上に自分の教え方も拙かったのでうまく伝えられないこともあった。事前の準備ではひらがなとカタカナの書き方、日本語での文章の作り方（文中の助詞の使い方）を教えたいと考えていた。しかし、前述した通り想定していたよりも少人数でかしまった授業形式ではなかったため日常会話をしながら日本についての話をしたり相手の学習したいことを聞いてそれに合わせて教えたりしていた。ひらがなやカタカナ、単語などよりも日本でよく使う簡単な漢字や実践で使うような会話を学びたい学生が多かった。日本のアニメが好きという学生も多く共通の話題から話を進めることもできた。日本人が極端に少なかった日はみんなで日本語の単語を使ったゲームをおこなったり、お茶を飲みながら折り紙をする日もあった。初めての日本語を教えるという経験を通して自分があまり考えず雰囲気ですべてを話しているということに気が付き、日本人として正しい日本語を使うよう心掛けたいと思った。自分が教える側であったが教えられることも多かった。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室以外の時間にご飯を食べたり、観光地に行ったり、簡単なゲームで遊んだり、ショッピングをしたり、現地の学校の英語の授業に参加したり、アオザイを着たりした。思っていたよりも寒く感じ体調管理に気を使った。すべて日向クラブのメンバーと一緒にだった。教室外の何気ない会話のなかで学ぶこともたくさんあり、日本語が母国語ではない人からの純粋な日本語に関する疑問は私が考えたこともないようなものでとても勉強になった。特に動物の鳴き声の言い方は同じ音を聞いているはずなのに日本語とベトナム語で全く違うので面白いと感じた。また、私にとって最も心に残った出来事は現地の大学の英語の授業に参加し日本の文化についてのプレゼンテーションを行ったことだ。私はジブリアニメーションについての発表をした。意外にもジブリアニメーションを知っている学生はとても少なかったが、多くの学生が興味をもって話を聞いてくれたので良かった。日本の大学の授業とは雰囲気が違って前のめりに授業を受けている生徒が多く英語のレベルも高いと感じた。その他に

【学生大使 実施報告書】

もホアロー刑務所に行ったことも印象に残った。ホアロー刑務所はフランス占領時やベトナム戦争時に使われた建物で、自国とは直接的には関係のない戦争や暗い歴史について自分から深く学ぶことが今まであまりなかったのととても興味深かった。全体を通して、2週間で観光と現地の人の生活の両方を経験できたこと自分の知見を広められたことは本当に贅沢なことであったと思う。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私は渡航前に日本とは全く異なる生活を知り自分の視野を広げることを目標としていたが、この目標を達成できたと思う。このプログラムを通して少しでも多く学びを得ようと思い、できるだけ現地の学生と関わることといつもと違う生活環境を最大限楽しむことを意識して努力した。もちろん疲弊してしまったり不便さをネガティブに捉えてしまうこともあったが徐々に慣れることができた。現地の学生はとても親切で些細なことでも質問すると丁寧に返してくれて打ち解けるのに時間はかからなかった。ベトナムの人と直接話をしたり行動を共にしたことが様々な考えに触れることができ最も自分の視野を広げたと思う。

4 プログラムに参加した感想

大学1年生でこのプログラムに参加できて本当に良かったと思う。以前から海外留学をしたいという強い思いがあったが自分の学部では難しいと思い諦めていた。しかし、本プログラムでは長期休暇を利用しながら学校の管理の下で留学ができ、現地の学生とも関わることもできた。2週間という短い期間ではあったが現地の学生に案内していただいたことで現地の人と同じような生活をし観光とは全く違う体験ができ、買い物や交通ルールなど本当にあらゆる生活の面で助けてくれてとても心強かった。渡航前は不安なこともたくさんあったが、本当にこのプログラムならではの良い経験を積むことができたと思う。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

私は医学部看護学科なので海外留学も日本語を教えるという体験も自分の将来にあまり関係がないように思える。しかし、専門や専攻に関係なくこのプログラムで学ぶことはたくさんあった。自分と同世代が異国で熱心に勉強に取り組んでいるという至極当たり前前のことを目の当たりにし自分にはもっと頑張れる余地があるのではないかという漠然としたやる気が湧いてきた。また自分の専攻に関わることとしては、他国の公衆衛生について知ることができたことが良かった。患う病気は同じでも環境によって程度やなりやすさが大きく変わると思う。実際、2週間という短い期間にも関わらずベトナムはバイクの量や交通事情が日本と大きく異なるので今回の滞在で咳が出たりのが痛くなる人もいた。日本は清潔さや衛生面への意識が高くそれを当たり前だと思ってしまう部分もあるので今後は学習の中で公衆衛生に目を向けたいと思った。今回本当に貴重な経験をする事ができたので、この経験を無駄にしないようこれからも努力を積み重ねて行きたい。

6 現地での活動写真

写真1 タイトル (日本語教室)



写真2 タイトル (アオザイ)



写真3タイトル (ホアロー刑務所)



写真4タイトル (朝ごはん)

